

七夕祭り

沼田日本語教室は、1997年5月に現代表である黒瀬美智子さんによって立ち上げられました。発足以来沼田公民館を会場に毎週土曜日13:00~16:00に活動しています

今まで学習者はベトナム、フィリピン、中国、 韓国、ロシアなどの留学生、技能実習生等、 沼田地区近郊に生活する学習者を受け入れ ています。

現在、学習者約15名、日本語指導ボラン ティアが15名です。近年は地元西風新都に働 く外国人労働者の増加に伴って、学習希望者 が増えています。

発足以来20有余年、通算約1万人余りの日本語を母語としない人への日本語指導、日本文化の伝承、習慣を伝えることで支援してきました。

単に日本語指導だけではなく、鏡開き、雛祭り、七夕祭りなどをはじめ、我が国の季節の伝統行事の紹介や体験、地域住民との国際交流会などを行って日本語学習の動機づけ、励ましなど相互理解と共生を目指しています。



国際交流会の様子



# 沼田日本語教室 ボランティア・グループ

# 活 動 状 況

### ①日本語ボランティア養成講座の実施

専門外部講師を招聘して、日本語学習支援の基礎、指導方法、実情等について、公開講座を5週(週1回1.5時間) にわたり沼田公民館で開催しました。

対象は日本語ボランティアに興味のある方として、安佐南区内の公民館たよりを通じて広く募集し、合計**22人**の参加者がありました。受講料は資料代として500円を徴収しています。

	日 時	内容	講師
1	8月4日(日)	地域日本語教室の役割と実践	ひまわり21
		地域日本語教室で"まちづくげ"仲間づくげを!	代表 伊藤 美智代さん
2	8月10日(土)	日本語学習支援の基礎①	広島 YMCA 専門学校
		ボランティアに必要な心構え	言語コミュニケーション科
		やさい、日本語とは?	専任講師 福永尚子さん
3	8月17日(土)	日本語学習支援の基礎②	広島 YMCA 専門学校
		タイ語でタイ語を学ぶ体験	言語コミュニケーション科
		日本語の文法を学びましょう	専任講師 福永尚子さん
4	8月24日(土)	日本語学習支援の基礎③	広島 YMCA 専門学校
		初級段階の方への教え方(①対①で教える)	言語コミュニケーション科
		テキストを見ながら教え方を学びましょう	専任講師 末田朝子さん
5	8月31日(土)	日本語学習者とのコミュニケーション(実習)	広島市内の日本語教室ボランティア
		広島市内の日本語教室に通う学習者と実際に会話	光原 鈴江さん(ひろしま日本語教室)
		をしてみましょう	日野浦 佳子さん(亀山日本語教室)
			黒瀬 美智子さん(沼田日本語教室)



養成講座風景

## (実施結果)

1.ボランティア養成講座は22名の参加があり、このうち12名の方が新規の日本語学習支援に取り組む可能性があり、 地域の日本語学習支援の裾野拡大にわずかながら貢献しました。(10名は当教室のメンバー)

2.ボランティア養成講座受講後、当教室にも4,5名の新規スタッフが加わり教室運営が充実しました。

# ②子供の居場所作りについて

子供を持つ学習者が安心して参加できるように、日本語教室のそばの別のスペースに子供の居場所を併設し(沼田公民館のご理解により、空き会議室などをお借りできることになりました)、別のボランティアスタッフが面倒を見る仕組みを作ることに取り組みました。

しかしながら、具体的な検討・試行に着手したところ、ボランティアスタッフの負担増に対する不安等教室メンバーの合意 形成の不足や、子供受入れ予約・受付方法、対応するスタッフの確保不調など課題が多く、今期は数回の試行・検討にと どまりました。そのため本件については、申請費用等の発生には至りませんでした。

試行、検討を通じて、少なくとも当教室スタッフやボランティア養成講座受講者については、子供を抱える外国人労働者の育児・託児支援活動の必要性についての認識が高まったものと思います。

## ①日本語ボランティア養成講座の実施

- ・当初期待した地元沼田地区の受講者が少なかったため、増加を図りたい。
- ・今回のような助成措置がないと財政的には次回以降の実施は厳しいと思います。
- ・講座開催についての中国新聞の取材・記事掲載以降応募者が飛躍的に 増えました。公民館だよりだけの広報では、今回応募者は半数にも至らな かったであろうと思われます。

# ②子供の居場所作りについて

#### (1)教室スタッフの合意形成について

幼児や思春期の子どもの世話は、幼児教育等の専門知識の無いボラン ティアスタッフにはかなり負担となること意見が多く、取り組みの具体的内容 について、メンバーの理解と協力が必要不可欠です。

# (2)運営スタッフの確保

学習者(親)の教室参加予定自体が曖昧であり、事前に他組織等のボランティアスタッフを依頼することが困難です。また、教室の現在のスタッフとしても学習者の出欠に波があり、実際問題繁閑の調整が難しいと思われます。

っ後の課題